

# 松禪寺報

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒 668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

第 98 号

<https://syozen.com>

<https://www.facebook.com/syozenji>

発行日 令和 4 年 6 月 25 日



## 生と死の間

どんな人のどのような死も  
生きていることの果敢なさを  
感じさせる。

そのことに例外はない。

けれど、

あらゆる人生が例外なく

人間のみじめさを

思い知らせるとは言えない。

人の一生は果敢ないけれど、

決してムダではない。

そんな風に考えるとき

何か大きなものに

包まれるように思える。

(青山社発行「法話と寺報の素材集」より)

# 春彼岸法要と地域おこしのお話

## 豊岡市地域おこし協力隊の森本莉永さんが活動報告

曇り空の肌寒い3月21日午前10時より、約30名のお参りのなか春彼岸会法要を執り行いました。法要後、豊岡市地域おこし協力隊の一人で、農業分野で活動されている森本莉永さん(栗尾在住)に、現在の活動から今後

の計画までを、スライドを交えながらお話ししていただきました。森本さんは神戸市出身で、大阪大学大学院で発展途上国の農村部における参加型開発などを研究されています。また、在学中には弓道部主将として活躍



▲スライドを交えて自己紹介から「地域おこし協力隊」の活動について報告された森本莉永さん。参加者からのいろいろな質問にも丁寧に応えていました=3月21日、松禪寺



▲久しぶりに多くの人がお参りされた彼岸会でした

され、森本さんの粘り強い活動を支える源に活かされているように感じました。当初は慣れない農業に疲れを感じた時もあったようですが、何かと閉塞気味の郡部の農業に新たな挑戦を期待しています。その後は数々の質問にもお答えいただき、ちょっとした交流会にもなりました。

コロナ感染症でさまざまな行事や法要が縮小していますが、久しぶりに多くの参拝者を迎え、心温まる彼岸法要となりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

# 第一回境内掃除に18名の参加をいただきました

## 何かとご多忙の時期にご参加いただき、ありがとうございました

評議員総会で承認可決された本年度の事業の内、第1回の境内掃除を5月22日(日曜日)快晴の下、午前8時から約2時間にわたって境内周辺の草刈りなどで汗を流しました。今回の参加対象地域は、上山根と下山根より2名、貝田2名、平田より2名、佐々木区の中

路、宮本、檜谷より4名、総代6名、住職と寺庭、計18名で草刈りなどを中心に境内の美化に努めました。初夏を迎えて草もよく延びており、お陰様で気持ちの良い境内となりました。

第2回の境内掃除は、7月31日(日曜日)午前8時開始です。よろしく願いいたします。



# 鐘楼の屋根が立派に生まれ変わりました

檀信徒はじめ多くの皆様方のご協力に感謝申し上げます

鐘楼屋根の葺き替え工事に伴う臨時費は、2月と9月の2回に分けて納入のお願いをしています。第1回分はすべて納入いただきありがとうございます。誠にありがとうございました。次回9

月にも引き続きご協力をお願いいたします。また、町外の多くの皆様からもあたたかいご支援をいただきありがとうございます。御礼申し上げます。葺き替え工事は5月10日より始まりまし



▲古い瓦の取り外し工事開始= 5月10日



▲板打ち工事は5月24日に完了しました。



▲古い屋根の鴟尾(しび)。ユニークなお顔です。



▲足場も取り外され、立派な鐘楼に生まれ変わりました＝6月6日

た。古い瓦がすべておろされ、大工さんの仕事から板打ち工事まで順調に進みました。新しい瓦が次々に葺かれて行きました。立派な屋根に生まれ変わり、5月31日には足場を残して工事は完了しました。お陰様で重厚な屋根に生まれ変わり、今後も平和な暮らしと平穩無事を祈る鐘の音を響かせます。



## 5月5日子どもの日に「花まつり」を行いました



お釈迦さまの生誕を祝う「花まつり」を、5月5日子どもの日に行いました。午前8時半に住職が本堂でお勤めし、その後、本堂前に設けた花御堂の前でも読経しました。午後5時頃まで、自由に参拝していただき、甘茶も飲んでいただきました。田植えやその準備で忙しい時節ではありますが、その合間にお寺まで来ていただき、お釈迦さまの誕生佛に甘茶を灌いで手を合わせておられました。

# 今年も桜が境内を彩りました

松禪寺境内の桜は老化していますが、今年も花をつけました。4月7日頃にはライトアップ用のライトを設置し、しばらくは夜桜をご近所の方々には楽しんでいただきました。

西行法師は「願わくは花の下にて春死なむその如月の望月のころ」と詠んでいます。願



▲ライトアップの桜

うものなら桜が咲くその花の下で死にたいものだ、きさらぎの満月の夜に、という意味になりましょうか。桜に対するイメージは、人それぞれでしょう。華やかさもありませんが、夜桜を愛でていると、何となく人生の無情と



▲桜はやっぱり青空に映えます



か儂さを感じられるものです。西行法師は、美しく咲く花に、人の生死を重ねあわせました。長い冬を終えて迎えた春、その喜びと共に儂く散り去る花の命を、自分の死にざまを思います。

季節は移ろいます。今年も桜の花を愛でることができたことを、素直に喜びたいものです。

# 第二の人生を僧侶の道を選んだ人たち

## 愛知県犬山市の瑞泉寺で3泊4日の研修に参加されました

妙心寺派では社会の第一線で働いてこられた人たちが定年を迎え、第二の人生において僧侶として生きる道を選んだ皆さんを支える「第二の人生プロジェクト」を進め、今年で10年目を迎えました。コロナ禍により年一回の貴重な研修会も3年間お休みしていましたが、今年度は開催することとなり、新たに

会場を愛知県犬山市にあります瑞泉寺(専門道場)をお借りして、6月9日(木曜日)から12日(日曜日)までの3泊4日の研修に、平均年齢67歳、18人が臨みました。住職も事務局として参加してきました。

朝4時半、瑞泉僧堂の雲水さんが鳴らす振鈴で起床、5時朝課と坐禅、7時粥座(お粥

の朝食)、終わって日天掃除とまたたく間に朝の日課が進んでいきます。日中は主に講義や実習です。妙心寺派の総務部長、教学部長、前妙心寺派人権擁護推進委員長の講義をはじめ、妙心寺派教学部員によるいろいろな実習、お経の練習、法衣のたたみ方、袈裟のかけ方、三拝の練習など、内容も豊富でした。

午後3時には晩課を勤め、5時に薬石(夕食)、その後は坐禅。夜9時に解定で寝ることが出来ます。

参加者の中にはすでに住職やお寺に入つて留守居役をしている人から、まだ修行前の人



▲瑞泉寺専門道場にて坐禅に励む研修生



▲講義に聴き入る研修生＝瑞泉寺本堂(犬山市)



▲法衣などのたたみ方も学びました。

もあり、さまざまな境遇のなかから参加しておられます。今回、瑞泉僧堂の雲水さんの動きも間近に見ることができ、参加者も良い研修だったと喜んでおられました。最終日、瑞泉寺僧堂の雲水さんにお礼を述べて下山された皆さんは、研修を終えた安堵感とやりきったという満足感でにこやかに下山されました。

